

株式会社KAJIN 代表取締役社長

# 林志英

## 華やかな思い出作りを演出する子供フォーマル服 ユニークな社会貢献活動も開始

日本のフォーマル子供服市場は、欧米に比べてまだまだ小さい。子供たちがフォーマルな装いをするシーンが少ないことが理由だ。そもそも、大人がフォーマルを着る機会も多いとは言えない。その中であって、フォーマル子供服の認知と、利用シーンの提供に貢献してきたのが、株式会社KAJINの創業者で社長の林志英さん。インターネット上で、4つの「フォーマル子供服専門店」サイトを開設し、人気を博している。林社長は、中国で生まれ、大学卒業後、日本の大学院に留学。卒業後、日本企業に就職。その後、日本国籍を取得、結婚、出産などを経て、日本でKAJINを立ち上げた。創業8年目を迎える今年、子供服の会社らしい、独自の社会貢献活動も始めている。

石原智/取材・文 柳内 悠/撮影  
Photographs by □□□□■□□□■ Text by □□□□■□□□■



仕事の喜びを感じるのには、購入者からの手紙も読む瞬間。「お客様からたくさんのお手紙や写真が届きます。KAJINのホームページには、当社の服を着たお子様の写真を掲載するコーナーがあるからです。そこに写る、着慣れないドレスやタキシードを着たお子様のちょっと誇らしげな表情を見ると、この仕事で創業してよかったと心の底から感じます」

## ハレの場を彩る装いとして

私が経営する株式会社KAJIN（カジン）は、子供向けのドレスやタキシードなど「フォーマル服」をインターネットの店舗で販売する会社です。子供向けフォーマル服の店舗としては、日本でトップクラスの品ぞろえだと自負しております。

フォーマル服というのは、礼服、正装のことで、冠婚葬祭や、パーティーの時に着る服装です。うちで扱っているのは、その子供用です。

ただし、当社では、フォーマル子供服を、もう少し広い意味で捉えています。女の子用のドレスや、男の子用のスーツ、タキシードなどの純粋なフォーマル服だけでなく、普段着よりも華やかな「お出かけ着」の分野まで品ぞろえしています。子供たちが、ちょっと大人っぽい服を着てお出かけし、思い出に残る時間を演出できればと考えているからです。

お客様の声を聞くと、「フォーマル子供服」の着用シーンは、非常に広範囲です。まず、卒業式や入学式など学校行事関係。

私立学校などの受験、いわゆる「お受験」の用途は、最近非常に増えています。ピアノの発表会などのお稽古の発表会も、大切なシーンです。また、七五三などの季節の行事の際には、お参りに行き、写真撮影をするために購入なさる方がたくさんいらっしゃいます。

私がこの会社を創業したのは、2001年です。「子供たちに、華やかな思い出を提供したい」という動機で創業しました。そこには、私の幼少期から創業時までの三十数年の中での、様々な思いが込められています。

私は、1965年に中国・蘇州で生まれ、上海の復旦大学日本語学科を卒業しました。その学生時代に、上海にいらした大分県の方の通訳をした縁で、23歳の時に、大分大学大学院で経済学や経営学を学ぶ機会をいただきました。当時の中国での私の生活環境を考えると、このチャンスがなければ、留学など夢のまた夢でした。

ですから、大分の方々には、感謝してもきれない思いがあります。今でも、お世話になった方々や関係者への挨拶も兼ねて、大分には頻りに訪れています。

大学院卒業後は、日本企業への就職、結

婚、子育てと約20年間、日本で生活してきました。1998年には日本国籍を取得しました。

私が日本での生活で感動したことは多々あります。その一つが、日本文化には、季節ごとの行事やイベントがたくさんあり、多くの人がそれを楽しんでいることでした。さらに、私が素敵だなと思ったのは、そうした行事に子供たちが喜んで参加することでした。お正月、ひな祭り、こどもの日、七夕、七五三など、すべて子供中心です。クリスマスなども日本的に受容され、子供たちの楽しい行事となっています。

こうした行事に子供たちが参加することが、しきたり、しつけなど、目に見えない絆を伝えていくことにも役立っています。親子のコミュニケーションの機会にもなっています。

二人の娘が生まれてからは、こうした行事やイベントを娘たちにも、楽しんでもらいたいと強く思うようになりました。

私にとって、こうした特別な日を彩る大切な要素が、ドレスに代表される華やかな服装であり、それを写真に残すことでした。

というのも、私は、子供時代に華やかな

服を着た記憶はなく、当然、着飾った姿の写真がないからです。当時の時代背景もあり仕方ないことですが、さみしく感じます。この思いが、私が子供用のフォーマル服を普及させようと思ったことの理由の一つになっています。

## 子育て、主婦業と、経営者の三足のわらじで

創業当時、私は、企業の正社員として勤務し、小さかった二人の娘の子育てもしていました。夫も会社員で出張も多いという生活でした。一方で、いつかは起業したいという思いを持っていた私にとって、当時のインターネットの普及期だった当時は、大きなチャンスでした。インターネットを活用して、ビジネスを始める。そこで扱うのは、子供のころからの憧れだったおしゃれな子供服、とりわけドレスなどのフォーマル子供服。

土日と夜間中心の「週末起業」でしたが、事業も軌道に乗り出したこともあり、円満退職し、経営に専念しました。もちろん、子育てと主婦業は続けながらでしたが。

事業が順調に進んだ要因の一つは、フォーマル子供服が、ネットショップで扱う商品として、適していたことでした。今でもそうですが、フォーマル子供服は、通常の洋服屋さんでは売っていません。百貨店にはありますが、品ぞろえは少なく、「置いてある」という程度。

専門店もありますが、定番デザインのオーソドックスなものを中心で、10年ほど前の当時も、ネットの専門店はいくつかありましたが、品数の少なさは否めませんでした。

しかし、ドレスや上品なお出かけというものは、選ぶ楽しさが不可欠です。特に、女の子の場合、お姫さまになる瞬間を想像して、服を選べる必要があるのです。

また、当時、子供用のフォーマル服は数万円以上と高価なものがほとんど。そのため基本はレンタルが主体だったことも選ぶ楽しみを減らしていた原因でした。

一方で、海外の子供服ショップのサイトを閲覧すると、素敵なフォーマル子供服がたくさん掲載されていました。値段は、日

本の百貨店・専門店の半分以下。「自分で売るのが難しい」と考えました。

会社員をしていたといっても、アパレル業界で仕事をしたことはありません。そこで、商品の仕入れ先探しからスタートしました。まず、ネットで海外の間屋やメーカーを調べましたが、それだけではどんな商品なのかわかりません。そこで、フォーマル服の本場アメリカのデパートや専門店に行きました。商品のタグからメーカーの名前を探し出し、連絡を取って、「商品を仕入れたい」と出向いたのです。こうして取引を開始した会社の多くとは、今でも関係が続いています。

## 不要な服を回収し、腹話術人形用に

当社の商品は、フォーマルですから、日常着ではありません。数回着ただけの新品の服がクローゼットの中で眠っていることがあるのです。昔は、妹や弟たちに「おさがり」として「リユース（再利用）」されることもありましたが、最近は、それも難しい状況にあると思います。とはいえ、思い出のある服を捨てるのも忍びないことですし、ゴミになってしまうのは、環境保護の面からも問題です。そこで、お客様が不要になったフォーマル子供服を、再利用する方法を考えました。

それが、7月7日から開始した「ニコニコECO（エコ）活動」です。不要になったフォーマル子供服を送っていただき、再利用する仕組みです。一定のサイズの子供用のドレスやタキシードであれば、当社で販売した商品以外の服も回収します。

再利用の仕組みとして今回取り入れたのが、回収した商品を、提携先の腹話術劇団などに寄贈するという仕組みです。腹話術人形の衣装として再利用してもら予定です。

このやり方を思い付いたきっかけは、元々、当社のお客さんだった腹話術師さんとの出会い。メールのやり取りをするようになり、今回のリユース活動に協力してもらうことになりました。人との縁が、新しいチャレンジにつながるんだなとつくづく感じます。



はやし しえ  
株式会社KAJIN代表取締役社長

上海の復旦大学日本語学科卒業後、大分大学修士課程に留学、経済学修士。修士取得後、日本にて、日本の東京証券取引所一部上場企業に就職。1998年、日本国籍に変更。同社に勤務しながら、結婚、出産。その間、2001年にネットショップを創業。03年に、勤務先を退社し、会社設立。KAJINは、子供フォーマル服のネットショップでは、国内トップの知名度と、品ぞろえを誇る。商品の7割は、フォーマル服の本場である米国に、社長自らが、買い付けに行く。残りは、提携工場で製造する自社オリジナル商品など。2004年に「AllAbout Japan」主催「スーパーおすすりオンラインショップ2004」を受賞。社長を筆頭に、社員のほとんどは、子育て中の母親。「子育て出勤」、「在宅勤務」なども活用し、母親の視点で子供服を展開する。<http://www.kajin.jp/>

※「ニコニコECO活動」詳細は、KAJINのウェブサイトをご参照ください  
<http://www.kajin.jp/>